

## 【成果報告】

複雑性・不確実性に満ちた現代のグローバル社会では、様々な心理・社会的なリソースを結集し、適切に対応する力である「コンピテンス」の育成が不可欠である。これまで英語教育は「メソッド」(教授法)と「コンテンツ」(教科内容)に主眼が置かれてきた。しかし、現代において英語教育はコミュニケーション能力の育成だけでなく、より大きな社会的視点に立ち、他文化理解・思考力も重視した包括的な能力の育成を目指した英語教育が求められる。これには、多様な文化を理解し、批判的思考を促進する能力が含まれ、これらは最新の「内容言語統合型学習」(Content and Language Integrated Learning: CLIL) (Coyle&Meyer, 2021)の発展に鑑みても明らかである。

本研究では、CLIL の教育アプローチに基づく英語授業において、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals; SDGs)について学ぶことにより、異文化間能力(Intercultural Competence)が発達するのか調査を行った。CLIL は専門分野(Content)を学ぶことで、他者と議論や対話(Communication)を通じ、批判的思考力(Cognition)を養い、自己のアイデンティティ(Culture)を構築し、他者や社会についての理解を深めることを目的とした教育アプローチである。その中でも、異文化理解の育成は CLIL 教育展開の中心である(Yang, 2021)。

具体的には、質問紙及び半構造化インタビューデータの分析を通じて、文化的多様性と批判的思考能力がどのように発達するのか、またそれらの相互作用について考察した。分析から、英語学習を通して SDGs について学ぶことで、グローバルな課題や多様な視点についての理解を深めることができることが示唆された。すなわち、学習者は言語能力を向上させると同時に、グローバルな問題に対する本質的な洞察力を身につけ、相互に結びついた世界に対する責任感と共感を促進することができた。具体的に述べると、「世界規模の諸問題に対しての気づき>多面的な観点から課題を抽出し分析>多様性の尊重への意識>社会課題解決に向けた取り組み」と段階的な学びのステップが見られた。SDGs で取り扱うテーマは、身近でかつ地球規模のリアルなコンテンツを使用するため、批判的思考力の育成を促進させることができた。グループでの協同学習は、知識の実践的な使用や SDGs の実施に積極的に参加することに関連するため、学習者の相互作用を刺激したと思われる。また、協同学習を通して、違う視点から課題について捉えられることができた。

調査結果に基づき、CLIL アプローチを採用した SDGs 教育は、多様な文化を理解し、評価することができる学習者の世代を育成すると同時に、この先に待ち受ける複雑な課題に対処するための批判的思考能力を育成する大きな可能性を秘めていると主張する。